

ダイマー模型と群作用

石井 亮

(広島大学理学研究科)

トーラス上の二色グラフである条件をみたすものをダイマー模型という。ダイマー模型から関係式つき籠が定義でき、それを用いて3次元アフィントリック多様体のクレパント解消ができる。良い条件のもと、関係式つき籠はクレパント解消の導来圏を記述する。3次元の **McKay** 対応の拡張という立場からその仕組みについて説明し、さらに群作用のあるダイマー模型についても触れる。これは、植田一石氏および、一部 **Alvaro Nolla** 氏との共同研究である。